

口腔病理専門医講習会 I (剖検)

【演題】 剖検症例のまとめ方

【講師】 石川 文隆 (埼玉県立がんセンター病理診断科)

口腔病理専門医試験の剖検症例問題(Ⅲ型問題)では、脳を含む全身臓器からの肉眼所見と病理組織学的所見に加えて、臨床所見、血液データなどの検査所見、現病歴、既往歴などを総合的に判断して、病理診断を行う必要があります。そこでは、腫瘍や死因となった主病変に加えて副病変を把握して、フローチャートを作成することが求められています。

正答にたどり着くためには、多様な剖検症例を豊富に経験して、報告書を作成することが最も望ましいのですが、ここ数年で剖検数が急減しているため、経験を積むことが難しくなっているように思います。

今回の講習会では、わずかながらでも受講者の剖検の経験が増すことを目標としています。まず、病理解剖の基本的事項を解説してから、事前に提示した剖検症例の解説を行い、フローチャートの作成まで示します。また、実際にCPCが行われた症例についても供覧する予定です。

事前資料については、バーチャルスライドでの提示を予定しています。

【略歴】

平成 11 年	長崎大学歯学部歯学科 卒業
平成 15 年	東京医科歯科大学大学院歯学研究科口腔病理学専攻 修了 (歯学博士)
平成 12 年～	東京都立広尾病院検査科病理 非常勤研究員・医員
平成 16～21 年	東京女子医科大学医学部第二病理学講座 助教
平成 21～24 年	九州歯科大学健康促進科学専攻生命科学講座口腔病態病理学分野 助教
平成 24 年～	埼玉県立がんセンター病理診断科 医長・副部長

【Title】 Diagnostic method for an autopsy case

【Lecturer】 Ayataka Ishikawa, Department of Pathology, Saitama Cancer Center

In autopsy cases, the pathological diagnosis is generally based on macroscopic, histopathological, and clinical examination findings. The primary and secondary lesions, causing the tumor and eventually death, are diagnosed, and a flow chart is made. However, it has become difficult to acquire the experience of performing autopsies because the number of autopsies has been rapidly decreasing. This class aimed to give students the experience of autopsies.